

# 井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日  
 発行・平成23年6月10日・第8号通信  
 責任者・堀 達夫(井の口まちづくり会会長)  
 〒500-8003 岐阜市大宮町1-17 ☎058-263-9540  
 事務局長・河崎良史 E-mail・malo@he.mirai.ne.jp  
 通信編集・作成 馬場わかよ(事務局)

## 4月29日、平成23年度総会を開催しました

### 歴博講堂に会員約70名が参加

去る4月29日(祝)に、平成23年度井の口まちづくり会の総会が、岐阜市副市長ほかを来賓として迎え開催されました。

堀会長の挨拶に続き、前年度事業報告、本年度事業計画(案)の審議等が行われましたが、なかでも本年度新たな事業として「岐阜城跡の発掘勉強会」「まちなか七夕アート」の開催が紹介され、来場者の関心を引いていました。

議案の審議が滞りなく終了後、元岐阜市歴史博物館館長の藪下浩氏による記念講演が行われました。

◆会長挨拶「三つのポイント」 会長 堀 達夫

早いもので「井の口まちづくり会」も今年で4年目を迎えることになりました。この間、皆さま方のご支援、ご協力により諸々の活動もおおむね順調に展開していくことができました。

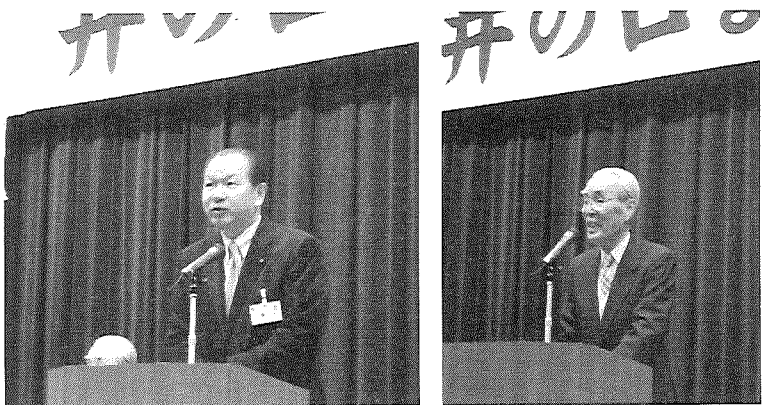
私は、当まちづくり会のさらなる発展のため、次の三点を心掛けていきたいと存じています。

一つめは、できるだけ多くの会員に5部会の何れかに入ってもらい、会の運営に参加していただきたい。

二つめは、この会はむろん会員によって構成されていますが、井の口地区全員の支えがあって成り立っているという思いを忘れないでいること。三つめは、会の

門戸を広く開放し、地区の内外を問わず会の趣旨に賛同してくださる人には加入していただくことです。

今後とも、歴史と文化のまちである井の口地区の発展のため、役員ともども頑張ってお持ちいただけます。皆さま方の一層のお力添えをお願いいたします。



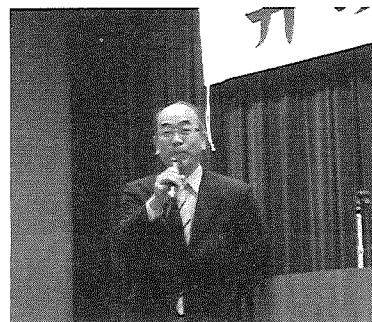
岐阜市副市長武政 功氏が来賓の挨拶

挨拶をする堀会長

#### ●会費納入のお礼とお願い

総会の受付にて、平成23年度の会費を納入していただき、ありがとうございました。お越しいただけなかった会員の皆さまには、担当の者がお伺いしております。また、お手をかけますが会長宅までお持ちいただけると幸いです。

### 総会特別講演 信長公は易者だったのだろうか



元岐阜市歴史博物館館長  
前岐阜市埋蔵文化財調査事務局長  
藪下 浩氏

井の口まちづくり会の定期総会に際して、前岐阜市埋蔵文化財調査事務局長、藪下浩氏による記念講演をしていただきました。

私見と前置きされましたが、信長を今までは違う切り口で紹介する内容は面白く、「多くの戦国武将にはそれぞれ教育者としての

禅僧が付き、いわゆる文武両道を極めながら将としての人格を形成していった」として、「その教育

は四書五経をはじめとする中国文化が根幹となり、周易(占い)も盛んに用いられていた」と語られました。

信長も例外ではなく「戦」や「居城」の位置の決定に易を活用したようで、例えば小牧山城は四神相応の地(北に山、東に川、南に池、西に道を選んだように、彼の政策判断に「易」の影響を受けた事例を幾つか紹介されました。

しかし、偶像を信じず占いも一切信用しないとルイスフロイスが記すなど、現実主義の信長でもあります。性格も諸説飛び交うところがあり、多くの謎に包まれた人物像は、逆に計り知れない魅力

我々に与えてくれました。

現在、岐阜公園は「信長をテーマにした歴史公園」に再整備中

です。井の口を舞台に天下布武を宣した英傑を一層身近に感じられる講演会となりました。(小林孝夫)

#### イベント開催と募集のお知らせ

### まちなか七夕アート 開催期間 7月3日(日)～9日(土)

まちなかアート部会の新企画は、お月見アートに続き「七夕」のアートを井の口のまちに創ろうというものです。

内容は、河村邸の軒先を中心にまちなかあちこちの玄関先に、笹の七夕飾りを付けていただき、井の口の町並みの美しさを創出することと、6日の夜には河村邸にて癒しのコンサートを開きます。

#### ■まちなか七夕コンサート

日時 7月6日(休) 6時30分開場  
 場所 河村邸(下茶屋町)  
 出演 AKI(遠山亜希/フルート)

岐阜市在住のAKIさんは、クラシック、日本の歌、アニメソングなど、独自のアレンジを加えた演奏で、岐阜県を中心に活躍するプロのフルート奏者です。

また、当日は来場の皆さんに、短冊に願いごとを書いていただけます。

#### ■玄関先に「七夕飾り」の笹を飾っていただけるお宅を募集します

7月3日(日)午後1時30分から、ふくろうの店(伊藤宅)にて笹と短冊、七夕飾り用の紙などをお渡しします。

数は多めに用意いたしますが、なくなり次第終了します。事前にお申し込みをいただいたお宅を優先します。

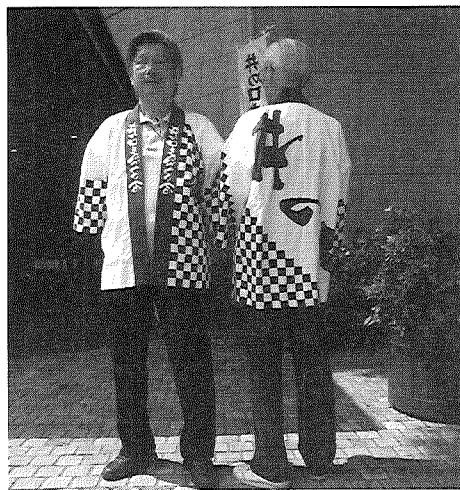
申込 伊藤いつお携帯 090-4083-6344

#### 会員ならびに部会員を募ります

井の口まちづくり会は、現在150名以上の会員で構成されています。そのうち地区外の会員が50名程いますが、地区内の世帯数は約500なので地域の2割の方が参加されている会です。

井の口のまちが好き、まちづくりを応援したい、積極的に参加したい方。お住まいの場所は問いません。どなたでも参加できる会です。入会受付は随時行っておりますので気軽に役員、事務局などへお声を掛けてください。

会員の皆さんには「部会」への入会も併せて募っております。現在5つの部会がありますので、裏面で興味のある部会活動がありましたら、是非入っていただき一緒に活動しましょう。



法被は白地に青色の格子柄を配し、背中に大きく「井の口」と染め抜いてあります。デザイン・文字共に伊藤いつお氏によるもので、3月に50枚を作成しました。モデルは、堀 達夫会長と塚原紀好氏です。

### 井の口まちづくり会の法被ができました

総会の受付でご覧になった方もあるかと思いますが、井の口まちづくり会の法被が仕上がりました。昨年度の垂れ幕と幟に続く備品で、この法被はまちづくり会の役員と部会メンバーが今後イベント等に着用していきます。法被使用に際しては、借入金として各自2千円を支払うことが決まりました。まだ入手されていない役員、部会員は、堀会長までご連絡ください。

### まちなかお宝アート発見

#### 河村邸のドウダンツツジ

下茶屋町にある河村邸は、かつては絹糸紡績商をしていた岩井伊三郎氏の屋敷でした。中に入って感じることとは、築100年は経っているものの子供が住んでいない隠居所であったためか、大人の雰囲気も漂って落ち着いた住まい空間が残っています。

印象的なのは東側の坪庭に3本、西側の中庭に6〜7本あるドウダンツツジで、座敷からの眺めを愛まっています。白い提灯のような愛らしい花は4月20日前後が見頃、葉が真っ赤に色づく紅葉は11月20日頃が最盛期です。「機会を設けて、その美しさを皆さんにも見ていただければ」と河村さんは言われます。花の季節ではありませんが、七夕の星の夜に、この館をコンサート会場に貸していただきます。(馬場)



撮影・篠田壽夫氏

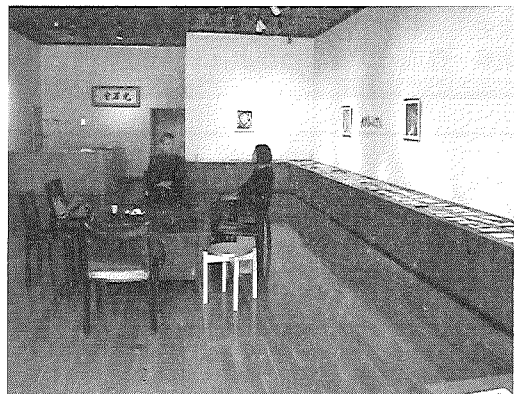
# 井の口に広がるまちづくりの輪…22年度後期各部会活動報告

## まちなかアート部会

### 大仏様への年賀状展

リーダー 伊藤いつお  
22年度に発足したアート部会の企画第2弾として、一般の皆さんから「大仏様への年賀状」を募集しましたところ、会員をはじめ、市内を中心に県内外から大仏様のファンという人たちが大仏というネーミングに興味を持った人たちが年賀状をいただきました。

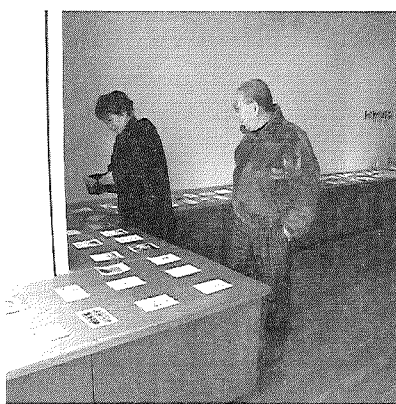
その数140点あまり、同時開催の会員宅に届いた手作りの年賀状を持ち寄った「井の口の年賀状展」と併せて20点ほどを画廊光芳堂にて展示し、1月14日(金)から16日(日)の3日間開催しました。会場内には吉田尚弘氏撮影の大仏様のいろいろな表情の写真パネルを飾り、来場の皆さんは年賀状に描かれた絵やイラスト、今年の抱負などを見て楽しんでみえました。



「大仏様への年賀状展」会場の画廊光芳堂

ほか、東海テレビがお昼前のニュース枠で放映していただき、それらの影響もあって15日は大勢の来場者で会場が一杯になるほどでした。しかし、最終日は今冬一番の大雪となり、残念なことに足を運んでいただく人が減少しました。反省点としては、大仏様を前面に出したためか、ハガキに大仏様

を描かなければいけないと思われる人があったことです。次回からは、大仏様にとらわれずもっと気軽に、手作りの年賀状であればよいとPRしたいと思います。今後、井の口のまちからアートや文化を発信し、定着するよう部会員みんなで活動していきます。



年賀状に見入る来場者

## 井の口寄席 イベント部会

リーダー 杉山 秀子

第8回目となる全日本学生落語選手権「策伝大賞」の決勝が行われた2月27日(日)当夜、全国から集まっている学生さん達の落語を身近な地元で聴かせてもらいたいとの思いから、井の口まちづくり会では「井の口寄席」をこれまで2回妙照寺にて開催し、今年は正法寺の庫裏をお借りして行いました。

決勝が終わって息を切らして到着する学生さんたちを待つ会場には、大勢の観覧の人たちが早くから詰めかけ、長良川国際会議場からそのまま来たという人もいて、入場は104人と大盛況でした。会場は満席状態、その客入りに学生さん達も熱演になり、場内は笑いの渦が巻き起こっていました。出演した9人のトリには今年の「策伝賞」を受賞した岐阜大学の三流亭今吾さんが上がり、一段と大きなお祝いの拍手を受けていました。また今年から、当夜の出演者の中からいちばん笑いを取った



満員の会場に笑いが起こる(三流亭今吾さん)

人を拳手で決めて「井の口まちづくり賞」を贈ることとし、手作りの桶は花の家かほすさんに渡されました。この様子はNHK名古屋の取材による「笑う岐阜に福来る！」の中で全国放送されました。演目の中入りにふるまわれた豚汁は今年も好評で、雨の予報でしたが降ることもなく暖かい夜になりました。会場の熱気と笑いの余韻に浸りながら、皆さん帰途に着かれました。(高橋和江)

第2回目の「俳句こと始め」を今年に当会の副会長杉山秀子氏宅にて3月21日(祝)に行いました。道路拡幅のために取り壊しが決まっている「杉山邸」は実に瀟洒な建物で、2階から眺める金華山への眺望もさることながら、数奇屋造りの伝統的日本人屋の技術が隅々まで心配りがされている素晴らしい屋敷です。杉山副会長の好意に甘え、今回は建物見学とお抹茶付きの「俳句こと始め」になりました。

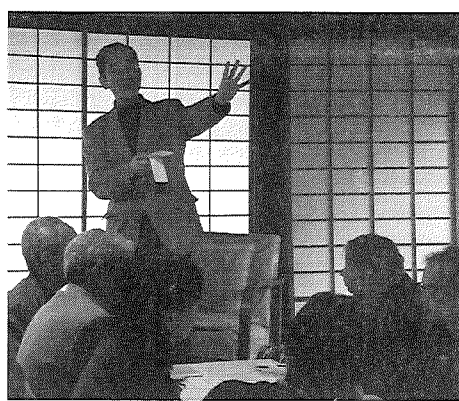
## まちの歴史探索部会

### 俳句こと始め

リーダー 中村 末雄

当日提出された句の中から、先生に選んでいただいた優秀作品をご紹介します。(◎は最優秀) ◎ 厠の戸少しきしみて木の芽風 前川けい子 芽ぶきする枝に光れる水の玉 中村 末雄 秋また古き良き家消えていく 堀 達夫 赤椿燃える想いを落とさずこほりのえつこ 宮田 律子 地震のニュースあふれる中に芽吹かな 松尾さい子 満天星の枝先赤く時を待つ 野々村聖子

講議の途中、お庭を眺めてお抹茶をいただき、岐阜公園や萬松館の庭園を散策して身近な季節の息づかいを感じることで、参加者全員が真剣に俳句に取り組みました。同日午後からは「さようなら杉山邸」と題して、地域の皆さんに屋敷を開放し、見学とお茶のおもてなしをしました。(河崎良史)



大野先生から俳句を学ぶ参加者



お庭を眺めて一服

句の集い古家のツバキ見納めに帯の椿差し出す茶に添えらるる 篠田 寿夫 選評 春の植物や場所設定の意味がよく理解され、その中から練られた今日のイベントにふさわしい句です。そのためよく似た句も多くありました。語句を並び替えることで新鮮な句になります。

## 岐阜公園周辺 発掘調査勉強会

5月21日(土)、現在発掘調査が行われている松ヶ枝町の現場で、25名の参加者を得て勉強会が行われました。岐阜市教育委員会の高木氏を講師に、遺構や出土品の実物を見せていただきました。調査地域は武家屋敷跡で、ここは齊藤道三が城下町の基礎を造り、一度信長に焼かれた後、道三の町並みを踏襲して岐阜町の形成がされたものであるという説明でした。

その後、信長公居館の発掘調査現場(すでに終了)へ移動し、社会教育課の高橋氏から信長のおもてなしが山頂の城と山麓の居館そして鶴飼であったこと、特に居館は天下人の庭園を模した迎賓館的な機能を持っていたのであろうという説明を受けました。井の口の人たちが暮らしている地域の前身を知ることのできた貴重なひと時となりました。(小林教子)



発掘現場を見学する参加者たち

## 事務局だより

事務局長 河崎良史

「井の口まちづくり会」が立ち上がって4年目に入りました。初年度は無我夢中で過ぎていきました。2年目は組織の確立と会員の増強や事業の充実に入れました。昨年度は、部会活動の活性化に努力しました。省みれば、この3年間で期待以上の会員数と組織の充実を図ることができたと思ってもいいでしょう。私自身いろいろなまちづくり会に参加してきましたが、積極的な人が少なく組織としての機能を発揮できない会を多く見てきました。委員会や部会を組織するのですが、なかなか実が伴わない。私の経験では「井の口まちづくり会」が数少ない成功例ではないかと思えるほどです。

特に、昨年度の部会活動はそれぞれが特徴を持ち素晴らしい内容だったと思います。是非とも今後は部会員が増え、部会中心のまちづくり活動が進めば大きな力の輪が生まれるのではないのでしょうか。

「まちづくりはひとづくり」とよく言われますが、井の口の場合は部会員が増えることが「ひとづくり」に繋がるような気がします。

## 戦前の建物を維持・復元する工事に最大200万円の助成が受けられます

対象となる工事は、町家や蔵などの維持・復元や、戦後の建物を町並みと調和させていくなどで、助成率は1/2(一部7/10)最大で200万円の助成です。今年度第2回目の募集が9月30日まで、第3回目は1月31日までです。傷んできた建物の外観工事をお考えの方、車庫などを木製格子にして町並みにマッチさせようとお考えの方、工事に取りかかる前にぜひ、(財)岐阜市にぎわいまち公社へご相談ください。助成には審査があります。 ●お問合せ にぎわいまち公社 Tel 266-1377 南庁舎内